

除草剤
アークエース粒剤
ブタクロール・ACN粒剤

平成 27 年 11 月 11 日付けで以下の通り適用拡大されました。

<変更内容>

●適用土壌及び適用地帯を削除し、【変更前】を【変更後】へ改める。

【変更前】

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ (北海道、東北、北陸) アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	壤土 ～ 埴土	3 kg/10a	1 回	田植同時散布機で施用	関東・東山・東海の 普通期及び 早期栽培地帯
		移植直後～ノビエ 1.5葉期 ただし、 移植後30日まで				砂壤土 砂壤土 ～ 埴土	
		移植後3日～ ノビエ1.5葉期 ただし、 移植後30日まで	全域 (関東・東山・東海を除く)の 普通期及び早期栽培地帯				
	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ (北海道) アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	壤土 ～ 埴土	2 kg/10a		田植同時散布機で施用	北海道 東北 北陸
移植直後～ ノビエ1葉期 ただし、 移植後30日まで			湛水散布				

ブタクロールを含む 農薬の総使用回数	ACNを含む 農薬の総使用回数
2回以内	3回以内

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ブタクロールを含む農薬の総使用回数	ACNを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	2～3kg/10a	1 回	田植同時散布機で施用	2回以内	3回以内
		移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで	2 kg/10a		湛水散布		
		移植直後～ノビエ1.5葉期 ただし、移植後30日まで	3 kg/10a				

<使用上の注意事項の変更>

【変更前】

- (4) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合には、除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- (5) 下記のような条件下では薬害が発生する恐れがあるので使用を避けること。特に下記①～③の条件と散布時または散布数日以内の梅雨明けなどによる異常高温が重なると初期生育の抑制が顕著になるので注意すること。
 - ① 極端な砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田（減水深2 cm/日以上）。
 - ② 軟弱な苗を移植した水田。
 - ③ 極端な浅植えの水田及び浮き苗の多い水田。
- (6) 活着遅延を生ずるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生ずる恐れがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (7) 水稻が水没するような極端な深水で使用すると薬害を生ずることがあるので避けること。

【変更後】

8. 使用上の注意事項

- (1) 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの1.5葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ヘラオモダカ及びアオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが本剤の散布適期である。
- (2) 苗の植付けが均一になるように、整地、代かきはていねいに行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行うこと。
- (3) 散布に当っては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも4日間は通常の湛水状態（3～5 cm）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (4) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合には、除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (5) 下記のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。特に下記①～③の条件と散布時または散布数日以内の梅雨明けなどによる異常高温が重なると初期生育の抑制が顕著になるので注意すること。
 - ① 極端な砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田（減水深2 cm/日以上）。
 - ② 軟弱な苗を移植した水田。
 - ③ 極端な浅植えの水田及び浮き苗の多い水田。
- (6) 活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (7) 水稻が水没するような極端な深水で使用すると薬害を生じることがあるのでさけること。
- (8) 本剤散布後の田面水を他の作物へ灌水しないこと。
- (9) 本剤使用後の空袋は環境に影響を与えないように適切に処理すること。
- (10) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。